



第8回日本老年薬学会学術大会 ランチョンセミナー1

# 老年栄養という老年医学トピック

日時 2024年5月18日(土) 12:00~12:50



大会ホームページ

会場 都市センター 第1会場(3階 コスモホールI)

座長 **荒井秀典** 先生 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長

演者 **前田圭介** 先生 愛知医科大学 栄養治療支援センター 特任教授

ランチョンセミナーは、整理券制です。

- ・ 配布場所:都市センターホテル 2階 総合受付付近
- ・ 配布時間:5月18日(土) 8:30~11:30
- ※ 整理券がなくなり次第、配布終了となります。
- ※ 整理券は、セミナー開始とともに無効となります。

共催: 第8回日本老年薬学会学術大会  
アボットジャパン合同会社 栄養剤製品事業部



# 老年栄養という老年医学トピック

高齢者は若年成人に比較して栄養問題を抱えやすい。加齢に伴う体組成の変化は栄養状態の悪化に類似する。フレイル・サルコペニアという老年症候群は広義の栄養状態不良と考えることができる。併存疾患の一部は栄養状態を悪化させ、疾患関連低栄養・悪液質という栄養障害の分類で説明される。生活習慣病管理のために食事制限が課される可能性、服用薬剤が食行動や消化吸収に影響する可能性もある。そのほかに、同居家族や社会参加の変化、経済状況の変化は社会的な側面として栄養状態の変化に関与する。要介護高齢者では、活動量低下や口腔と嚥下機能の低下に関連した栄養不良リスクが上昇する。また、人工栄養導入の可否についての意思決定支援や入院中の栄養補給不足の問題など重大な社

会未対応の課題が高齢者を取り巻いている。

高齢者の栄養問題は内容および原因が多岐にわたる。高齢者総合機能評価のように老年栄養という視点でも、1つの医学的側面だけでなく全人的(包括的)な評価と個別化された関りが求められる。高齢者に接する多職種にとって、老年栄養の知識は必須であると考えられる。しかし、老年栄養というコンセプトは理解できるものであるものの、まだ新しい領域が故、体系化されていない。学術的な統合と実臨床への普及が、高齢者を多く抱えこれからも高齢者人口が増加する本邦において重要である。本講演では、老年栄養の概説とポリファーマシーの関連にも一部触れたいと考えている。

## 【前田 圭介 先生 ご略歴】

- 1998年 熊本大学医学部医学科 卒業
  - 2017年 愛知医科大学 講師  
愛知医科大学病院 緩和ケアセンター/栄養治療支援センター  
愛知医科大学大学院医学研究科 緩和・支持医療学
  - 2019年 愛知医科大学 准教授
  - 2020年 国立長寿医療研究センター老年内科 医長  
愛知医科大学 客員教授
  - 2023年 愛知医科大学 特任教授  
愛知医科大学病院 栄養治療支援センター
- 研究者情報 <https://researchmap.jp/kskm/>